

ランドスケープデザインの考え方

●整備ポイント

本外構は、約 27,000 m²の広大な面積のため、整備に必要なコスト面が懸念されます。そのため、昨今の物価上昇を踏まえつつ、コストを効果的に抑えるために、全体をまんべんなく整備するのではなく、国道や利用者通路、建物周りなど、緑化景観や使い勝手などに配慮するエリアは「①しっかり創りこむ」、広場のように、緑の中に入って気軽に楽しめる場所は「②簡易な整備」、人の出入りが少ないエリアは「③既存のまま」など、利用ニーズに応じた段階的な整備計画とし、コスト抑制と美観の両立を目指します。



●軽井沢の植物を中心とした緑化計画

軽井沢町植物園の園長、植生学博士のアドバイスをもとに、在来種・固有種を中心とした、軽井沢らしい風景を創出します。



●生物多様性を大切にしたランドスケープ

野鳥が運んできた種子が芽生え、手入れした草花に混在し共存していく、生物多様性を大切にしたランドスケープとします。



●時間をかけて風景をつくる

竣工した時が「完成」でなく、気候風土を反映しながら永続的に変化・成長し続ける風景を創出します。



に配慮するエリアは「①しっかり創りこむ」、広場のように、緑の中に入って気軽に楽しめる場所は「②簡易な整備」、人の出入りが少ないエリアは「③既存のまま」など、利用ニーズに応じた段階的な整備計画とし、コスト抑制と美観の両立を目指します。

●段階的整備イメージ

①しっかり創りこむ	②簡易な整備	③既存のまま
<ul style="list-style-type: none"> 高木、中木 地被類 + 低木 浅間石入り土間コン 土間コン インターロッキング アスファルト 	<ul style="list-style-type: none"> 種子吹付 ※芝など3種混合 砂利敷き 木チップ 	<ul style="list-style-type: none"> 下草除去
整備範囲の比率【5割】	【4割】	【1割】

●既存樹木の活用

敷地内にある既存樹木は、可能な限り残し、緑化づくりに生かします。建設上、撤去がやむを得ない樹木については、移植も検討します。また、老木や倒木の恐れのある樹木、病害、光量不足などの樹木については、樹木医の診断に基づき撤去いたします。



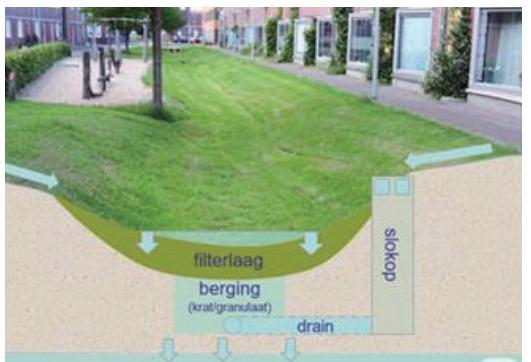
●ワークショップ型の緑化整備

あえて未整備の範囲を計画し、地域の子どもたちや住民を巻き込んだワークショップ型の緑化整備を検討します。



●自然の調整池（レインガーデン）

雨水全浸透に対応するための高価な貯水池は計画せず、雨水を一時的にためる調整池を検討します。



ランドスケープデザインの考え方

